



陵雲だより

～おもしろい学校づくりで考えて行動する子供の育成～

旭川市立陵雲小学校



一人一人の子供は集団の中でより良く育つ

～学校の協働的な学び～

校長 甲斐 信太郎

「本当に子供一人一人に対応した指導ができているだろうか？」

多くの学校の先生たちが、いつも自問自答するゴールのない悩みの一つです。

個性化・個別化した教育が注目された時期には、子どもたちが個々のプログラムに沿って個別に学習を進める授業が広がりました。子どもがみんな背中を向け、自分の課題を黙々と解いていくのです。教師は、家庭教師のようにその子に合った助言を与えるのです。極端に考えると学級や学校という場そのものがなくなります。みんなで一つの場所にいる必要がないからです。

コロナ禍では、個別学習が有効のようにも見えます。しかし、この方法の問題点は子どもたち個々の差が飛躍的に開き、教室内に大きな能力差が生まれてしまうことです。個を集団から切り離して、個の能力を個別に高めようとする学習に陥りがちな問題です。

コロナの心配をしながらの教育活動となっていますが、集団での学習には大きな意味があると考えます。本校は今年「自ら考え判断し行動できる子～友達と共にきらきらぐんぐん取り組む子供～」の育成を重点にしています。協力して考える、力を結集して活動するなどの「協働性」を高めることがねらいです。

本校の子どもたちには、素直さや真摯な態度を感じ取る機会がとても多くあります。例えば、過日の宿泊研修では、子供自ら主体的に実行することや集団の中で社会の決まりやマナーを守ることに等について、しっかりと学んでいました。これは、一人一人の子どもの心が育っていることの証ではないでしょうか。

そして、子どもたちが共に生活している学級・学年の集団の質のよさについても大事な基盤です。子どもを健やかに育てたいと願うなら、その友達も同じように高めなければならないと、昔から言われます。樂をしたいとか自己都合を優先するなど、人は自分に甘く弱い心をもっています。学習でもそれは同じです。質の良い集団で育っているなら、一人一人が良い影響を及ぼし合います。

私たち教員が一人一人の子どもに寄り添うことと同じくらいのパワーを込めて、学級全体を育てようと必死になるのは、そのためです。

過日に行った5年生の宿泊学習では、めあてや活動の計画を仲間と協力してグループで決め、仲間と共に多くの体験をすることで、5年生にとっては来年の修学旅行に向けた意義のある宿泊学習となりました。

一人一人の確かな学びを高めることはもちろんのこと、子ども集団を育て、互いの切磋琢磨や質の向上を生む教育を続けてまいります。今後も家庭・地域の御支援をどうぞよろしくお願いいたします。



宿泊研修(5年生)

6月29日(水)～30日(木)の宿泊研修では、国立大雪青少年の家で研修を行いました。1日目は、防災学習を軸に学習しました。雨天のため、屋内での活動となりましたが、十勝岳火山砂防情報センターで火山災害に関する知識を広めたり、防災グッズ作成体験を通して防災意識を高めたりすることができました。また、キャンドルの集い、焼き板クラフト制作、ポッチャ、フローカーリング等の体験も行いました。初めての泊を伴う活動を通して、集団生活での個々の役割の重要性を再認識することができました。



【焼き板クラフト】



【キャンドルのつどい】

人権の花 ～贈呈式

7月4日(月)に旭川人権擁護委員協議会と旭川市福祉保健課の方が来校され、人権の花の種子と苗の贈呈式がありました。花を育て、思いやりの心も育てるよう活動をしていきます。



～いじめ防止集会～

6月24日(金)に児童会が中心となり、全校児童でいじめ防止集会を行いました。今年度は、校内放送で各学級をつないでの取組となりました。

いじめについての動画から、「いじめを受けたらすぐに相談する」等、いじめに関わる大切なことについて学びました。また、具体的な場面を想定したクイズから、いじめについて考えました。児童会からは、

陵雲小いじめ撲滅のテーマ「みんなで作ろう、笑顔の学校！」が呼び掛けられ、各学級でできることを話し合うことができました。

